



学内広報

No.1296



法文2号館

2004.9.8
東京大学広報委員会



オープンキャンパス2004の風景（3ページに関連記事）

総合研究博物館

CONTENTS

一般ニュース	2
「日中持続的発展・天津フォーラム」及び「第3回日中中学長会議」開催される、「東京大学オープンキャンパス2004」開催される、第7回公開学術講演会を開催、平成17年度入学者選抜要項の交付始まる、平成17年度外国学校卒業学生募集要項の交付始まる、平成17年度大学入試センター試験受験案内の交付始まる、平成16年度第1回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される	
部局ニュース	9
寄付講座「国際資本市場法（東京証券取引所）」設置記念第17回比較法政シンポジウム・レセプションが行われる、法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による外国人留学生懇談会を開催、「夏休み航空宇宙工学教室2004」の開催、平成17（2005）年度大学院人文社会系研究科入学試験日程を発表、生物情報科学学部教育特別プログラム公開シンポジウム「バイオインフォマティクス教育の現状と課題—新しい教育システム“ダブルメジャー”に	

に向けた試み」、理学部留学生見学旅行を実施、三鷹国際学生宿舎を去っていく留学生への送別パーティー行われる、特別講演会開催される、平成16（2004）年度夏学期留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（第38期生）の修了証授与式行われる	
掲示板	16
校歌の制定について、第102回（平成16年・秋季）公開講座「いま、倫理の時代」開催、御殿下記念館プールに新型殺菌浄化システム導入、エレベーター改修工事に伴う書庫内資料利用制限について、総合図書館備付け図書のおすすめについて、データベース定期講習会のお知らせ、オンライン・チュートリアル公開のお知らせ、	
事務連絡	22
人事異動（教官）	
訃報	23
藤井澄二名誉教授	
淡青評論「失われた10年」の総括	24

研究協力部

「日中持続的発展・天津フォーラム」及び「第3回日中大学長会議」開催される

7月31日（土）、中国天津市において天津市人民政府と本学との共催で「日中持続的発展・天津フォーラム」が開催され、戴相龍天津市長及び佐々木総長から開会の挨拶があった後、本学から佐々木総長、小宮山副学長をはじめとする6名の教員、そして天津市側は孫海麟副市长をはじめとする6名の発表者が講演を行った。本フォーラムは、新世紀の新段階における都市と農村の調和の取れた協同的発展をより高い次元から検討し、経済と社会の全面的な持続的発展をマクロ面と戦略面から検討することを目的としたものである。同時に、本学としては、中国における本学の存在感を高めることができ、大きな収穫を得ることができた。また、本フォーラムの開催は現地でも大きく報道され、好評を博した。

フォーラム終了後には、今後も双方が科学技術及び人材交流を促進することを約した覚書を交わし、引き続き相互協力を行うことが約束された。



天津フォーラム会場の様子

8月1日（日）～3日（火）には、北京市北京飯店において、第3回日中大学長会議が開催され、佐々木総長及び小宮山副学長が出席した。本会議には、日本からは、文部科学省近藤信司文部科学審議官、日本学術振興会小野元之理事長、及び北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、早稲田大学、慶応大学の学長等が参加し、中国からは、中国教育部周濟部長、章新勝副部長、及び北京大学、清華大学、復旦大学、南京大学、上海交通大学、浙江大学、西安交通大学、中国科学技術大学、吉林大学、南開大学、東北大学の学長等が参加した。なお、会議においては、『中国2003-2007年教育振興行動計画』及び『国立大学法人化改革』が日中大学間交流に与える新課題について、

「高等教育における人材の共同育成、科学分野における共同研究の強化、及び教育研究レベルの向上を目指して」及び「日中拠点大学、及び協力大学における連携体制の強化について」の各テーマごとに発表及び質疑応答が行われ、特に、人材の共同育成、留学生の問題、東アジアの視点からの全人類共通の問題の解決について熱心な議論があり、過去の成果、今後の課題、日中間大学間連携について確認がなされた。次回は、平成18年に中国西安交通大学にて開催することを約し、会議は成功裏に終了した。

また、佐々木総長は、この会議の期間に、本学と清華大学との学術交流協定書に調印を行った。



日中大学長会議の様子



清華大学との協定書にサインする佐々木総長

8月3日（火）には北京大学許智宏学長、北京市人民政府范伯元副市长を総長一行が個別に訪問し会談を行った。会談の中で、本学が北京市内にリエゾンオフィスを設置することについて北京大学、北京市人民政府の双方から了承を得ることができたほか、今後も引き続き互いの教育研究交流を更に推進させることとし、会談を終了した。



北京大学長との会談



オリエンテーション風景

総務部

「東京大学オープンキャンパス2004」開催される

8月2日(月)本郷キャンパス、3日(火)駒場キャンパス及び本郷キャンパス他において、大学進学を志望する高校生などに本学の教育研究を紹介するため、「東京大学オープンキャンパス2004」が開催された。全国から3,076名の応募が寄せられたなか、抽選により決まった1,930名(2日1,106名、3日駒場キャンパス557名、学生企画コース267名)(延数)が参加した。

初日は大講堂において10時から総長のビデオレターに続き藤井理事の挨拶、広報委員長のオリエンテーションののち、法・医・工・文・理・農・経済・教育・薬の各学部のコース、大学ガイダンスコースに、研究所施設見学コース(文系・理系)を加えた全11コースに分かれ、前半・後半の2コマにわたり、本学教員・学生との交流、体験授業、教職員による実験室、研究室等での施設説明などが行われた。



史料編纂所で説明を受ける参加者



大講堂(安田講堂)前に集まる参加者



佐々木総長のビデオレター

2日目は、駒場I・IIキャンパスにおいて、10時から教養学部長の挨拶に続き、キャンパスや課程の紹介、講演や講義、研究室・施設見学等が行われた。

また、この日は今回初めての企画である「学生企画コース」が実施されたが、この企画は本学学生有志が主に企画から当日の案内まで運営する体験型オープンキャンパスで、大講堂において10時からのオリエンテーションに続き、法曹コース、理系研究者コース、文系研究者コース、エンジニアコース、ビジネスパーソンコース、医

科学研究所コース、多摩農場コースの7コースに分かれ、多くの企画を擁す各々のコースで概ね17時までの時間を「東京大学」で過ごした。

参加者から寄せられた感想は概ね好評であり、明日を担う若い世代の方々が、本学の教育研究活動の一端に触れ、入学試験という限られた視野だけでなく、大学に対する理解を深める機会を提供することができたものと思われる。

さらに、本行事は関係部局の教職員・学生の理解と協力があってこそ開催し得るものであり、今回初めての企画である「学生企画コース」も、参画した本学学生有志と関係部局の双方が力を合わせることによって初めて可能になったものである。



「学生企画コース・多摩農場」の一コマ



総務部

第7回公開学術講演会を開催

「科学が拓く未来—ミクロからの設計—」と題した第7回東京大学公開学術講演会が、8月2日（月）18時から本郷キャンパス大講堂（安田講堂）において開催された。

講演は、本年度紫綬褒章を受章した樽茶清悟工学系研究科教授による「物質の中の量子の世界を操る」と、同じく本年度紫綬褒章を受章した中村祐輔医学研究所教授による「ヒトゲノム研究からオーダーメイド医療へ」のテーマで行われた。

高校生から中高年まで幅広い年齢層の約420名の参加者があり、各講演を熱心に聴講し、好評であった。

次回の公開学術講演会は来冬に開催する予定である。



樽茶清悟教授



中村祐輔教授

「平成17年度東京大学入学者選抜要項」が決定し、各都道府県教育委員会等に通知するとともに8月1日（日）から学生部入試課及び各学部事務窓口等で交付を開始した。

入学者選抜の実施教科・科目等は別表1・2のとおりである。

別表1 平成17年度 東京大学入学者選抜の実施教科・科目等について（文科各組）

学類、学科等 及び入学定員等 〔平成16年度〕 志願倍率	学力検 査等の 区分・ 日程		注1 大卒入試センター試験の 利用教科・科目等		注2 個別学力検査等（第2次学力試験）		注3 大卒入試センター試験・個別学力検査等の配点等				特別の選 抜方法等	その他			
	教科	科目名等	科目名等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科			外国語	論文I	論文II
文科一類 5.6 415人 前期 373 後期 42 その他 若干	国語 地理 公民 教 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A } から1 地理B 現社、倫、政経 教Ⅰ・教A 教Ⅱ・教B、工、簿、情報から1 物B、化B、生B、地学Bから1 英、独、仏、中、韓から1 【5教科6科目】	国Ⅰ、国Ⅱ、古Ⅰ 教Ⅰ、教Ⅱ、教A（数と式、数列）、教B （ベクトル、複素数と複素数平面） 日B、世B、地理Bから2 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、 中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国 語に代えて、英独、ドイツ語、フランス語、 中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮 語のうち一つを試験場において選択す ることができる。	国Ⅰ、国Ⅱ、古Ⅰ 教Ⅰ、教Ⅱ、教A（数と式、数列）、教B （ベクトル、複素数と複素数平面） 日B、世B、地理Bから2 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、 中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国 語に代えて、英独、ドイツ語、フランス語、 中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮 語のうち一つを試験場において選択す ることができる。	センター試験	200	*100	*100	200	100	200			800	韓国子女 外国人 追加合格
文科二類 4.5 365人 前期 327 後期 38 その他 若干	国語 地理 公民 教 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 英、独、仏、中、韓から1 【4教科4科目】	国Ⅰ、国Ⅱ 教Ⅰ、教Ⅱ 論文I 論文II	個別学力検査						200	200			400	韓国子女 外国人 追加合格
文科三類 5.8 485人 前期 432 後期 53 その他 若干	国語 地理 公民 教 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A } から1 地理B 現社、倫、政経 教Ⅰ・教A 教Ⅱ・教B、工、簿、情報から1 物B、化B、生B、地学Bから1 英、独、仏、中、韓から1 【5教科6科目】	国Ⅰ、国Ⅱ、古Ⅰ 教Ⅰ、教Ⅱ、教A（数と式、数列）、教B （ベクトル、複素数と複素数平面） 日B、世B、地理Bから2 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、 中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国 語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、 中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮 語のうち一つを試験場において選択す ることができる。	センター試験	200	*100	*100	200	100	200				800	韓国子女 外国人 追加合格
	国語 地理 公民 教 理 外	国Ⅰ・国Ⅱ 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B から1 現社、倫、政経から1 英、独、仏、中、韓から1 【4教科4科目】	論文I 論文II	個別学力検査							200	200		400	

注1 【大卒入試センター試験の利用教科・科目名】 備考
 (1) 工業数理、簿記、情報関係基礎を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び高等学校の高等課程の修了（見込み）者だけである。
 (2) 理科、地理歴史又は公民、地理歴史又は数学の選択科目は、本学の個別学力検査の出題の際にその科目名を掲げること。
 注2 【個別学力検査等】 備考
 (1) 前期日語の英語試験の一部は聞き取り試験を行う。（30分程度）
 (2) 理のふるま、一、外国語試験科目は、志願者が見る。外国語は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち一つを試験場において選択することができる。
 (3) 論文Ⅱ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）：文化、社会に関する問題について論述させ、理解力・思考力・表現力を見る。
 注3 (4) 論文Ⅱ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）：人権の思想、歴史、言語、行動、教育及び文化全般に関する語学をめぐって、入学後それらを体系的に学習・研究するための基礎を固め、理解力・表現力・思考力を見るが、特に正確な知識に裏付けられた論理性を評価する。
 (5) 論文Ⅰは、文科各組ごとに別の問題
 (6) 論文Ⅱは、文科各組ごとに別の問題
 注3 (1) 【大卒入試センター試験・個別学力検査等の配点等】 備考
 (1) 前期日語・学力試験の成績の判定は、大卒入試センター試験の成績（総得点）と個別学力検査の成績（総得点）を総合して行う。この比率は、大卒入試センター試験の成績を「1」、個別学力検査の成績を「4」である。
 (2) 前期日語・合格者の判定は、個別学力検査の成績に基づいて行う。ただし、判定に必要な場合は、大卒入試センター試験の成績や面接を参考とすることがある。
 (3) 配点に*印を付している教科は、選択教科を要す。

平成17年度 東京大学入学選抜の実施教科・科目等について (理科各組)

学部・学科等名 及び入学定員等 〔平成16年度 至願定率〕	学力検査等の 区分・日程	注1 大学入試センター試験の 利用教科・科目名		教科等	科目名等	2段階 選抜	注2 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等					特別の選 抜方法等	その他	
		教科	科目名等				試験の区分	国語	地歴	公民	数学			理科
理科一類 1. 1,47人 前期 0,25 後期 1,22 その他 若干	前期 2月25 ・26日	国	Ⅰ・ⅡⅠ ⅡA・ⅡB・ⅡA・ⅡB・地理A } から1 地理B 現社・倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [5教科4科目]	国 数 理 外	Ⅰ・ⅡⅠ ⅡA・ⅡB・ⅡA・ⅡB・地理A } から1 地理B 現社・倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [5教科4科目]	約 2.5 倍	センター試験	200	*100	200	100	200	800	外国人 追加合格
		後期 3月13 ・14日	数 理 外	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [3教科4科目]	その他 数 理 外	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ 数Ⅰ・数B (ベクトル・複素数と複素数 平面)、数C (行列と線形計算、いろいろ なる曲線)、物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、 地学B・地学Ⅱから1	約 5.0 倍	センター試験	200	*100	200	100	200	500
理科二類 4. 6 551人 前期 4,92 後期 5,9 その他 若干	前期 2月25 ・26日	国	Ⅰ・ⅡⅠ ⅡA・ⅡB・ⅡA・ⅡB・地理A } から1 地理B 現社・倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [5教科6科目]	国 数 理 外	Ⅰ・ⅡⅠ ⅡA・ⅡB・ⅡA・ⅡB・地理A } から1 地理B 現社・倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [5教科6科目]	約 3.5 倍	センター試験	200	*100	200	100	200	800	外国人 追加合格
		後期 3月13 ・14日	数 理 外	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [3教科4科目]	その他 数 理 外	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ 数Ⅰ・数B (ベクトル・複素数と複素数 平面)、数C (行列と線形計算、いろいろ なる曲線)、物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、 地学B・地学Ⅱから1	約 5.0 倍	センター試験	200	*100	200	100	200	500
理科三類 7. 1 90人 前期 1,0 後期 若干	前期 2月25 ・26・ 27日	国	Ⅰ・ⅡⅠ ⅡA・ⅡB・ⅡA・ⅡB・地理A } から1 地理B 現社・倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [5教科6科目]	国 数 理 外	Ⅰ・ⅡⅠ ⅡA・ⅡB・ⅡA・ⅡB・地理A } から1 地理B 現社・倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [5教科6科目]	約 4.0 倍	センター試験	200	*100	200	100	200	800	外国人 追加合格
		後期 3月13 ・14日	数 理 外	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B・工・簿・情報から1 物B・化B・生B・地学Bから1 英・独・仏・中・韓から1 [3教科4科目]	その他 数 理 外	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ 数Ⅰ・数B (ベクトル・複素数と複素数 平面)、数C (行列と線形計算、いろいろ なる曲線)、物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、 地学B・地学Ⅱから1	約 5.0 倍	センター試験	200	*100	200	100	200	500
							個別学力検査	80		120	120	120	440	
							個別学力検査				300		500	
							個別学力検査					I:100 II:100	600	
							個別学力検査					化学:150 生物:150	400	
							個別学力検査					化学:150 生物:150	400	

注1 【大学入試センター試験の利用教科・科目名】 欄
 (1) 工業教理、簿記、情報国際基礎を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者だけである。
 (2) 理科、地理歴史又は公民の選択科目は、本学の個別学力検査の出願の際にその科目を届け出ること。
 注2 【個別学力検査等】 欄
 (1) 前期日程の英語試験の一部に関き取り試験を行う。(30分程度)
 (2) 総合科目Ⅰ：英語の読解力と日本語の記述力を測定する。一般常識及び基礎的な理科の学習活動に必要な養育としての英語の読解力と日本語の記述力を測定する。
 (3) 総合科目Ⅱ：帯象の履修への学生の応用能力を見る。(この科目では、数学の総合的な応用能力を測定する。前掲とする数B (ベクトル・複素数と複素数平面)、数ⅡⅠ・数ⅡⅡ・数ⅡⅢ・数ⅡⅣ (数と式、数列)、数ⅡⅤ (行列と線形計算、いろいろなる曲線) といったような曲線) に関する知識、物理などの一般常識も要求される。
 注3 (4) 総合科目Ⅰ、化学は、理科各組に共通の問題。
 (5) 生物は、理科二類・理科三類に共通の問題。
 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】 欄
 (1) 前期日程：学力試験の成績の判定は、大学入試センター試験の成績(総得点)と個別学力検査の成績を「4」点と総合して行う。この比率は、大学入試センター試験の成績を「1」、個別学力検査の成績を「4」とする。
 (2) 後期日程：合格者の判定は、個別学力検査の成績(総得点)と個別学力検査の成績(総得点)と個別学力検査の成績を「4」点と総合して行う。この比率は、大学入試センター試験の成績を「1」、個別学力検査の成績を「4」とする。
 (3) 配点は*印を付している教科は、選択教科を表す。

「平成17年度東京大学外国学校卒業学生募集要項」が決定し、7月20日（火）から入学志願者に対し、学生部学生課及び入試課で交付を開始した。

募集人員、選抜期日、選抜方法、出願資格など、特別選考の概要は別表3のとおりである。

別表3 平成17（2005）年度 外国学校卒業学生特別選考 東 京 大 学	
実施科類	文科一類、文科二類、文科三類 理科一類、理科二類、理科三類
募集人員	文科一類、文科二類、文科三類 } 第1種、第2種 各若干名 理科一類、理科二類、理科三類 }
出願資格	<p>【第1種】（外国人であって日本国の永住許可を得ていない者） 平成12（2000）年4月1日から平成17（2005）年3月31日までの間に、次の基礎資格を取得し、かつ、要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア、イいずれかに該当すること。 ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（「外国において、学校教育における12年の課程」とは、地理的、場所的に外国で、滞在国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会すること。） イ 文部科学大臣の指定した者 ○ 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの</p> <p>(2) 要件 次に掲げるすべての要件を満たすこと。 ア 独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験（平成16（2004）年6月、11月実施のいずれか）の所定の教科をすべて受験すること（日本語・英語いずれの出題言語でも受験可）。所定の教科とは、文科各系を志望する者は文科系の教科である「日本語」・「総合科目」・「数学（コース1）」、理科各系を志望する者は理科系の教科である「日本語」・「理科（物理・化学・生物から2科目選択）」・「数学（コース2）」のことである。 イ TOEFL（Test of English as a Foreign Language）を受験すること（PBT、CBTいずれでも可）。なお、出願期間までに Official Score Report 又は Examinee's Score Record が提出できれば、受験時期は問わない。</p> <p>【第2種】（日本人及び第1種以外の外国人） 平成15（2003）年4月1日から平成17（2005）年3月31日までの間に、次の基礎資格を取得し、かつ、要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア、イいずれかに該当すること。 ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（「外国において、学校教育における12年の課程」とは、地理的、場所的に外国で、滞在国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会すること。） イ 文部科学大臣の指定した者 ○ 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で18歳に達したもの ○ 外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で18歳に達したもの</p> <p>(2) 要件 次の要件を満たしていること。 外国の学校に、最終学年を含め継続して3年以上在学したこと（文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設を除く）。</p>
選抜方法等	<p>【第1種】（外国人であって日本国の永住許可を得ていない者） (1) 第1次選考 書類選考、日本留学試験及びTOEFL（Test of English as a Foreign Language）の成績 (2) 第2次選考 小論文、面接 なお、小論文については次のとおりである。 〔小論文〕 2問を課す。 第1問は日本語で解答し、第2問は次の言語のうちからあらかじめ出願の際に届け出たもので解答すること。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、韓国朝鮮語、アラビア語 ~~~~~ 小論文解答言語の変更について（予告） 平成18（2006）年度の募集から、第1種の小論文解答言語を下記のように変更する予定である。 ~~~~~ 小論文は2問とも日本語で解答すること。 ~~~~~</p> <p>【第2種】（日本人及び第1種以外の外国人） (1) 第1次選考 書類選考 (2) 第2次選考 小論文、学力試験、面接 なお、小論文及び学力試験の出題教科・科目については次のとおりである。 〔小論文〕 2問を課す。 第1問は日本語で解答し、第2問は次の言語のうちからあらかじめ出願の際に届け出たもので解答すること。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、韓国朝鮮語、アラビア語 〔学力試験〕 （文科各系） 外国語 英（英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング）、独、仏、中から1 ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。 （理科各系） 数学 数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A（数と式、数列）、数B（ベクトル、複素数と複素数平面）、数C（行列と線形計算、いろいろな曲線） 理科 物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、生B・生Ⅱ、地学B・地学Ⅱから2</p>
出願期間	第1種 平成16（2004）年12月1日（水）から12月10日（金）まで 第2種 平成16（2004）年11月1日（月）から11月10日（水）まで
選抜期日	第1種 平成17（2005）年2月25日（金）、3月16日（水） 第2種 平成17（2005）年2月25日（金）、26日（土）、3月16日（水）
合格発表日	平成17（2005）年3月23日（水）
その他	「平成17（2005）年度外国学校卒業学生募集要項」は、交付中である。 交付場所：東京都文京区本郷7丁目3番1号 東京大学学生部学生課教務係 郵送を希望する場合は、本学あての封筒の表に「特別選考募集要項請求」と朱書きし、返信用の封筒を同封して下記あてに申込むこと。 返信用の封筒は、角形2号（縦93.2cm、横24.0cm）の大きさとし、郵便番号、住所、氏名を明記した上、210円分（速達は520円分）の切手を貼ること。 申込先：〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号 東京大学入試事務室

学生部

平成17年度大学入試センター試験受験案内の交付始まる

「平成17年度大学入試センター試験受験案内」の交付が9月1日（水）から全国の国公立大学等で一斉に始まった。

「受験案内」の交付を受けようとする者は、最寄りの国公立大学又は大学入試センター試験を利用している私立大学に、直接又は出身高校を經由して申し込むことになっている。本学では、学生部入試課及び各学部事務部窓口等で交付している。

研究協力部

平成16年度第1回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」開催される

平成16年度第1回「東京大学外国人留学生後援会・奨学生証書授与式」が、7月28日（水）11時から、関係者及び奨学生指導教員の臨席の下に本部棟大会議室で開催されました。

平成10年7月に設立された外国人留学生後援会は、「本学における留学生交流を促進するため、本学留学生への経済的支援、留学生と教職員・地域社会との交流促進、本学派遣の日本人学生等が事故等に遭った場合への援助等を行うこと」を目的として活動してきましたが、本年度についても奨学生20名（支給期間：平成16年4月～平成17年3月までの1年間、月額5万円）が決定され、当日は会長である佐々木総長より奨学生へ一人ずつ、奨学生証書が手渡されました。

次いで、佐々木会長より「本奨学金が、教職員、卒業生等の方々の善意によるものであるので、奨学生となった誇りを持って研究・勉学に励んでほしい」との挨拶があり、その後、奨学生を代表して大学院工学系研究科の金承協さんより感謝のスピーチ（別掲）がありました。

平成11年度以来、外国人留学生後援会は、奨学生として今回で140名を採用することができました。これもひとえに多くの諸先輩及び教職員の方々からのご協力の賜物であると考えております。

ここに外国人留学生後援会は、会員の皆様方に心から感謝の意を表明いたしますと共に、教職員の方々に外国人留学生の支援活動の更なる充実に向けた一層のご支援を重ねてお願い申し上げます。



外国人留学生後援会奨学生（11期生）と関係者

<奨学生代表者挨拶>

まず、今回の東京大学外国人留学生後援会の奨学生にご採用頂いた20名の留学生達を代表して、ご多忙中に今日の「奨学生証書授与式」に出席して下さった、東京大学総長を始めとする奨学生達の指導教官の方々及び貴会の関係者達に厚い謝意を申し上げます。

私達20名の新奨学生達は、世界の違う国から、各自の違う夢を持って、世界トップレベルの名門東京大学という同じ場所に集まって、各自の分野で自分の夢を実現するために努力を尽くしております。今日、東京大学の教職員、卒業生等の方々のご厚意によって成立された貴会の奨学生となったということは、私達20名の奨学生達にとっては、何よりも大きな激励でございます。というのは、それは経済面だけではなく、精神面でも貴重な支援になるに違いないからです。ここで、貴会に私達の心からの感謝の気持ちを申し上げます。

「日本は世界の出版大国である」ということは、日本に来る前から聞きましたが、実際日本に来て自分の目で確認した事実は、想像を遥かに超えたものでした。日本はまさに「知識の海洋」だと強く感じました。こんな環境に支えられている国の最高学府で勉強・研究するチャンスに恵まれたということは、私達の人生にとっては二度とない貴重なチャンスだと思っております。皆さんも同感があったと思いますが、東京大学のキャンパスを歩くと、いつも落ち着いた雰囲気を感じさせられ、ここは勉強する相応しい場所だというイメージが非常に強いです。

日本に於ける私費留学の生活で、一番感じたのはやっぱり時間の貴重さでした。中国の諺に「時間は金銭」という言葉がありますが、その真諦を日本に来て初めて強く感じました。生活のために貴重な時間を費やして、必要な生活費用を稼がざるを得ないのは、私達の現実であり、一番悩んでいることです。

今回、貴会から奨学金を恵まれることになり、私達は留学生に対する学校からの熱い関心を感じました。私達は貴会の関心と支持を原動力として、この奨学金を有益に活用して、もっと多くの貴重な時間を勉強と研究に利

用して、私達の実際の研究成果で貴会の恩恵に報いるつもりです。

私達の今の感謝の気持ちは、言葉でしか表すことができませんが、最後に、もう一回心からの感謝の意を貴会に申し上げます。誠にありがとうございました。

(大学院工学系研究科建築学専攻博士課程 金 承協)



金 承協 氏

<問い合わせ先>

東京大学外国人留学生後援会事務局

(研究協力部留学生課留学生支援第一係内・内線22372)



大学院法学政治学研究科・法学部
寄付講座「国際資本市場法（東京証券取引所）」設置記念第17回比較法政シンポジウム・レセプションが行われる

大学院法学政治学研究科附属比較法政国際センターは平成5年10月1日（金）、財団法人学術振興野村基金からの寄付研究部門として「国際資本市場法部門」を設置し、以後10年間、同部門は大きな成果をあげ、平成15年9月30日（水）に終了した。平成16年4月1日（木）、新たに東京証券取引所による寄付講座「国際資本市場法」が設置され、引き続き当センターにおいて、広く世界の資本市場における証券取引法および会社法等の各種の法領域についての研究、また関連する各国の法制度および政治制度について多角的・総合的な比較研究を行うことが可能となった。

新しい寄付講座の設置を記念して、7月22日（木）に第17回比較法政シンポジウム「日米のコーポレート・ガバナンスを考える」及びレセプションを品川イーストワンタワー・ストリングスホテル東京内ザ・コロッセオで開催した。

シンポジウムは神田秀樹教授の司会により、第1部「エンロン事件に関する米国政府調査結果の概要」をクリストファー・H・ハンナ サザン・メソジスト大学ロースクール教授、第2部「米国企業改革法の概要」を宮廻美明教授、第3部「最近の米国におけるコーポレート・ガバナンスの動向」をマーク・ラムザイヤー ハーバード大学ロースクール教授、第4部「米国におけるコーポレート・ガバナンスの日本への影響」を神田秀樹教授の各報告によって進められた。今回のシンポジウムは、研究成果の社会への還元の一つの試みとして、主として実務家を対象としたものであるが、約60名の参加者を迎え、満席の会場でフロアからの質問を受け、活発な意見交換が実現した。



ハンナ教授報告

また、シンポジウム終了後に同会場で開催されたレセプションでは、高橋宏志本研究科長及び（株）東京証券取引所浦西友義執行役員の挨拶の後、引き続きなごやかな雰囲気での歓談が行われた。終了後、多くの参加者より、非常に有意義な時間を過ごすことができたとの言葉をいただくことができた。



レセプション



シンポジウム会場（参加者席）

大学院法学政治学研究科・法学部、大学院公共政策学教育部

法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による外国人留学生懇談会を開催

7月8日（木）17時半から、山上会館地下1階御殿にて法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による外国人留学生等との懇談会が開かれた。

この催しは、留学生等と教職員が、相互の理解を深めることを目的として毎年7月に開催されている。今年も留学生センターの先生方を来賓としてお招きし、留学生、比較法政国際センター所属客員教授・外国人研究員、日本人学生チューター、教職員等、総勢97名が出席した。

塩川伸明教授（法学政治学研究科総合法政専攻長）の

司会進行で、高橋宏志法学政治学研究科長の挨拶、森田朗公共政策学教育部長による乾杯の後、歓談に入った。

宴たけなわになった頃、留学生を代表して、修士課程2年生の金梅花さん（中国出身）が留学生担当に向けて日頃の感謝の気持ちを伝えるスピーチを行った。次に、大学院外国人研究生のナジ・ゾルタンさん（ハンガリー出身）が、日本国内での旅行体験や5月に行われた日光見学旅行での思い出話を披露した。

普段は研究活動に忙しい学生たちだが、この日ばかりは教員や友人と大いに親睦を深め、和やかな雰囲気のなか19時半に散会した。



学生と教員との記念撮影



金梅花さん（中国出身）のスピーチ



ナジ・ゾルタンさん（ハンガリー出身）のスピーチ

大学院工学系研究科・工学部

「夏休み航空宇宙工学教室2004」の開催

8月3日(火)、4日(水)、本郷キャンパス内で、小中学生を対象にした「夏休み航空宇宙工学教室2004」を航空宇宙工学専攻教職員・学生により開催した。本企画は今年で3回目であるが、約50名の子供の参加があった。

初日、飛行原理の説明の後、ペットボトルロケットとゴム動力飛行機の工作を行い、翌日、農学部グラウンドと体育館で実際に飛ばして、飛距離や滞空時間を計測した。夏の暑い日差しの中、子供たちの作ったペットボトルロケットは大空に向かって勢い良く飛び、模型飛行機は体育館中を飛び回った。参加した子供たちにとって、航空宇宙分野ひいては科学に対する興味を大きくふくらませる貴重な経験になったと思われる。



体育館で模型飛行機を飛ばす子供たち



大学院人文社会系研究科・文学部

平成17(2005)年度大学院人文社会系研究科入学試験日程を発表

大学院人文社会系研究科では、9月1日(水)から「平成17(2005)年度修士課程及び博士課程学生募集要項」の配布を開始した。日程は以下のとおり。

〔修士課程〕

第一次(筆記)試験 平成17年1月23日(日)

※社会文化研究専攻社会学専門分野についてののみ
1月24日(月)に論文試験も行う。

第二次(口述)試験 平成17年2月9日(水)

※文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻
については2月8日(火)に行う。

※文化資源学研究専攻については、社会人特別選
抜での受け入れも行っている。

〔博士課程〕

第一次選考 論文審査等

(専門分野によっては学力試験を実施)

第二次選考(口述)平成17年2月14日(月)

※文化資源学研究専攻については、社会人特別選
抜での受け入れも行っている。

また、出願期間は以下のとおり。

〔修士課程〕平成16年11月5日(金)～11月12日(金)

(郵送のみ受付。12日(金)消印有効)

〔博士課程〕平成16年12月8日(水)～12月14日(火)

(直接持参又は郵送。郵送の場合は14日(火)必着)

募集要項の郵送を希望する者は、封筒の表に「〇〇課程学生募集要項請求」と朱書きし、郵便番号・住所・氏名を明記して、200円分(修士・博士等2部必要な場合は240円分)の切手を添付した返信用封筒(角型2号)を同封し、以下へ送付。

〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号

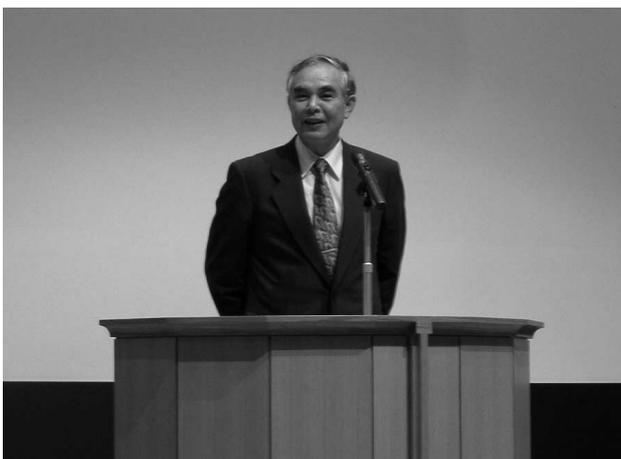
東京大学大学院人文社会系研究科事務部

電話03-5841-3710(大学院係)

大学院理学系研究科・理学部
**生物情報科学学部教育特別プログラム公開
 シンポジウム「バイオインフォマティクス
 教育の現状と課題 — 新しい教育システム
 “ダブルメジャー” に向けた試み」**

生物情報科学学部教育特別プログラムは、文部科学省科学技術振興調整費により平成13年度、理学部に設立された生物情報科学・バイオインフォマティクスの学部教育を行なう時限プログラムです。昨年、有識者による中間評価ヒアリングにおいて高い評価を得ると共に継続が決まりましたので、これを一つの区切りとして、これまでの成果を学内外に広く知ってもらおうと公開シンポジウムを開催しました。同時に、新しく生物情報科学科を設立しようという理学部を中心として全学的に推進されている取り組みを紹介するという趣旨から、「バイオインフォマティクス教育とダブルメジャー」と題するパネルディスカッションが行われました。尚、詳細は生物情報プログラムのHPにPDFやビデオを交えて紹介されていますのでご覧下さい。

(<http://www.bi.s.u-tokyo.ac.jp/japanese/symposium.html>)



岡村理学部長の挨拶

シンポジウムは7月27日（火）13時から農学部弥生講堂において開催され、関係者など約130名が参加しました。

最初に岡村定矩理学系研究科長・理学部長の挨拶があった後、プログラム実施委員長の高木利久教授から本プログラムの設立趣旨と実施概要が、そして、教務担当の南康文特任教授から教育及び研究の成果がそれぞれ紹介されました。次いで本プログラムの大きな目玉である生物情報科学実験1及び2について、実験責任者の高橋史峰特任助手と瀬々潤特任助手から紹介されました。その後、本プログラムの講義を体験して貰う狙いから萩谷昌

巳教授による「情報システム概論」の講義の様子が録画ビデオにより披露されました。次に、程久美子特任助教授と森下真一教授による共同研究についての講演があり、学術的成果と学生同士の交流に始まる経緯が紹介されました。

後半は高木プログラム実施委員長の司会によるパネルディスカッションが行われました。まず三井情報開発常務取締役の江口至洋氏と東京医科大学臨床プロテオームセンター長（現Sheffield大学教授）の藤田芳司氏から産業界が求めるバイオインフォマティクスの人材像についての講演があり、次に本プログラム教員の西郷薫教授と萩谷教授がそれぞれ生命科学と情報科学の立場から、本学の目指すべきバイオインフォマティクス教育について講演しました。そして昨年度、誕生した第一期修了生20名を代表して高山順さんと洪淳祥（ホン・スンサン）さんから履修の体験談が披露された後、パネルディスカッションに入り、バイオインフォマティクス教育の重要性が確認されると共に、本プログラムの存在意義と新学科設立の必要性が共通認識としてクローズアップされました。その後、工学系研究科教育プロジェクト室の吉田眞教授からダブルメジャーに関する世界的動向についての講演があり、それを受けた形でパネルディスカッションが行われました。フロアからの質問や意見もあり大いに盛り上がり、予定時刻を過ぎてもしっかり議論が繰り広げられました。



パネルディスカッション

大学院理学系研究科・理学部 理学部留学生見学旅行を実施

7月17日（土）・18日（日）に大学院理学系研究科・理学部留学生見学旅行が実施された。貸切バスによる見学旅行も3回目を迎えた今年は平日に旅行に参加出来ない学生が多いことを考慮し、清里への初の週末旅行を企画した。現在、本研究科・学部には24カ国から72名の外国人留学生在籍している。今回は留学生とその家族、チューターの日本人大学院生と国際交流室のスタッフを合わせて計42名が参加した。

1日目は11時前に本学を出発し、16時過ぎに清里の清泉寮に到着。多少雲がかかってはいたが、目の前に富士山が見え、高原の爽やかな風が心地よい。夕食までは自由時間で、各自部屋でくつろいだり、ジャージー牛乳で作られたアイスクリームを食べたり、景色を眺めながら散歩をしたりと自由に過ごした。ホールには自由に弾けるピアノもあり、気持ちよさそうにピアノを弾いている留学生もいた。夕食後のレクリエーションでは天文学専攻の井上允先生にもご参加頂き、研究についての質疑応答の後、みんなで新フルーツバスケットや借り物ゲームをして楽しんだ。

2日目は野辺山にある国立天文台野辺山宇宙電波観測所を訪問。直径45メートルもある電波望遠鏡の大きさに圧倒されながらも、みな興味深く見学し、特別に井上先生の案内で観測器の中も見せていただくことができた。お昼にはそば道場で手打ちそばを体験した。4～5人で一つのグループになり、粉のこね方から生地伸ばし方、麺の切り方を教えてもらいながら、パスタのような太いものから細いものまで様々な太さの麺を楽しそうに作り、自分達の作った茹でたてのそばを堪能した。日本でそばを食べることはあっても自分達で作ったそばを食べることは滅多にないので、みな楽しみながら作る事が出来たようである。

帰りのバスは週末ということもあり渋滞にはまってしまったが、途中で花火大会に遭遇し、美しい花火を間近で見ることが出来た。運転手さんの計らいで車内のあかりが消えると窓の外に次々と上がる色とりどりの花火がいつそう輝いて見え、日本の夏を感じさせるのに十分な雰囲気であった。参加者たちは研究室を越えた留学生同士のつながりや日本人学生との輪が広がり、また家族とのひと時を過ごし、少し気持ちのリフレッシュが出来たようである。



野辺山宇宙電波観測所



そば打ち



大学院総合文化研究科・教養学部
三鷹国際学生宿舎を去っていく留学生への
送別パーティー行われる

7月17日（土）、三鷹国際学生宿舎（三鷹市新川6-22-20）を去っていく留学生に対し、同宿舎院生会主催による送別パーティーが行われた。

三鷹国際学生宿舎には、留学生の宿舎生活全般をサポートするため大学院学生のチューターによる院生会が組織されており、その活動の一環として、このたび7月～9月に宿舎を去ることを予定している留学生を送るため、企画されたものである。

送別パーティーは、三鷹市内の野川公園を会場にバーベキューが行われ、留学生及びチューター23名が参加した。たまたま教養学部において前日の16日（金）に、AIKOM留学生の修了式及び送別の懇親パーティーが開かれたこともあり留学生の参加者が半減したことが残念であったが、一同は大いに食べ、飲み、そして語り送別パーティーを楽しんだ。

留学生からは、本学及び三鷹国際学生宿舎での思い出話、本学を修了した後の抱負など、率直な感想や忌憚のない意見が寄せられ、学生間の親睦と交流の推進に役立つ意義のある1日となった。

院生会は従来からこうした活動を継続して行っており、今後も様々な企画を通して学生間における国際交流への積極的な寄与を計画している。



送別パーティー 食後のくつろぎ



送別パーティーでの記念撮影

大学院薬学系研究科・薬学部
特別講演会開催される

大学院薬学系研究科（海老塚豊研究科長）では7月30日（金）10時30分から、山上会館大会議室において、黒川清氏（日本学術会議会長、東海大学教授、本学先端科学技術研究センター客員教授）による「日本の大学、米国の大学」と題する特別講演会を開催した。この講演会には、副学長、各部局長、薬学系研究科教職員及び大学院生等約120名が参加し会場は満席で盛況であった。また、講演後、参加者との活発な質疑応答などが行われた。



講演会の様子

留学生センター

平成16（2004）年度夏学期留学生センター日本語教育集中コース・特別コース（第38期生）の修了証授与式行われる

留学生センターでは今年4月から本年度夏学期を開講していたが、このほど全日程を終了し、8月3日（火）15時30分から医学部図書館333号室において、集中コース・特別コースの64名の修了者に対する修了証授与式を行った。

式には、来賓の古田副学長のほか関係教員らが列席、古田副学長の挨拶に続いて、修了者ひとりひとりに留学生センター日本語教育部門主任菊地教授から修了証が手渡された。

古田副学長は挨拶のなかで、半年に渡るコースをやり遂げたことをねぎらったあと、上達した日本語に対する賛辞を述べて修了を祝うとともに、この日をひとつの区切りとして一層励むよう修了者たちに呼びかけた。

留学生センター菊地教授の講評のあと、各クラスの代表者7名が日本語でスピーチを行い、来日当初の日本での生活や日本語学習への不安な気持ち、それを克服した喜び、いろいろな国からのクラスメートとの楽しい思い出や、これから本格的に研究に取り組むことへの抱負などが語られた。

和やかな雰囲気のうちには式は終了し、引き続き山上会館にところを移して、修了者を囲んでの懇談会が開かれた。これには修了者の指導教員も参加され、修了者たちはクラスごとに教員を囲んで写真撮影などしながら、日本語で歓談し、互いに修了を祝い、別れを惜しんだ。

なお、今期の修了者64名の所属は以下の13研究科、出身は以下の33の国（または地域）である。

法学政治学研究科	5名	医学系研究科	4名
工学系研究科	15名	人文社会系研究科	4名
理学系研究科	3名	農学生命科学研究科	7名
経済学研究科	1名	総合文化研究科	9名
薬学系研究科	1名	数理科学研究科	1名
新領域創成科学研究科	5名	学際情報学府	1名
情報理工学系研究科	8名		

韓国	5名	アメリカ合衆国	2名
中国	3名	ブラジル	3名
フィリピン	5名	ノルウェー	1名
インドネシア	2名	スペイン	2名
タイ	5名	フランス	4名
トルコ	3名	オーストリア	2名
ネパール	1名	エストニア	1名

バングラデシュ	2名	ドイツ	3名
スリランカ	1名	ハンガリー	1名
ミャンマー	2名	ベネズエラ	2名
イラン	1名	ペルー	2名
インド	1名	アルゼンチン	1名
パキスタン	1名	コロンビア	1名
オーストラリア	1名	チリ	1名
カナダ	1名	メキシコ	1名
エジプト	1名	ペラルーシ	1名
ルーマニア	1名		



修了証を手に一同で記念撮影



学生部

校歌の制定について

お知らせ

これまで本学には校歌がありませんでしたが、法人化に際して教職員ならびに運動会・音楽部団体等の卒業生など、様々な方々からの強い要望があったため、校歌の制定に関する「校歌等検討会」（委員長 河野通方教授）が設置され、検討がなされました。

検討会では、本学の校歌として教職員・学生に定着する可能性がある歌でなければならないという判断から、現時点で教職員・学生の皆さんに、ある程度知られている歌であることが必要であろうという意見が出され、候補曲として以下の3曲が挙げられました。

①「運動会歌」（「大空と」）

作詞：北原白秋

作曲：山田耕筈

②「ただ一つ」

作詞：大森幸夫（法・政19入）

作曲：山口琢磨（工・船21卒）

③「足音を高めよ」

作詞：平井富夫（教養・文二27入）

作曲：末広恭雄（農・水産4卒）

これらの歌を検討委員が改めて試聴し、校歌としての格調、メロディー、歌詞などを総合的に検討した結果、「運動会歌」（「大空と」）を校歌として、また「ただ一つ」が応援歌として相応しいという意見で一致しました。

「運動会歌」（「大空と」）は昭和7年に大学からの要請で北原白秋氏と山田耕筈氏に作詞・作曲をお願いしたもので「東京帝国大学の歌」という曲名で作曲されたものでしたが、当時の諸手続きの関係から「運動会歌」になった歌でした。

検討会では現時点で完全に制定してしまうのではなく、この歌が多くの教職員・学生に、自然に校歌として歌われるようになるまで「暫定的に校歌という位置づけで歌っていく」ということにしました。

検討会によってまとめられた答申は7月の科所長会議に諮られ、その方向性・手続きについて了解が得られましたが、本学教職員・学生からの意見を集約し、それらの意見を踏まえて最終的な結論を得たいと考えています。

「運動会歌」（「大空と」）は下記のホームページにて試聴することが可能です。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/stu/stul/bunka/kouka.html>

html

※本学ホームページの「東京大学で学ぶ皆さんへ」「東京大学で働く皆さんへ」からもアクセスすることができます。

また、本郷地区は学生部学生課課外文化係、駒場地区は教養学部学生課課外活動係にラジカセを用意しており、試聴することができます。

このように、校歌を制定することに関し、一人でも多くの教職員・学生よりご意見・感想をお聞きしたいと思います。10月8日（金）までにファックス・メールなどにて下記までお寄せください。どうぞよろしくお願いいたします。

「運動会歌」（「大空と」）

作詞：北原白秋 作曲：山田耕筈

1. 大空と 澄みわたる淡青

巖（げん）たり我が旗 高く開かん
 上げよ梢を 銀杏のこの道
 蘊奥（うんのう）の窮理 応じて更に
 人格の陶冶（とうや）ここに薫る
 栄光の学府 巍々（ぎぎ）たり赤門
 我が赤門 高く開かん

2. 大空と 新しき淡青

冴えたり我が旗 風と光らん
 楽しめ季節を 思慮あれこの道
 文明の證 自由と常に
 甚深（じんしん）の調和 ここに明る
 精神の学府 満ちたり赤門
 我が赤門 風と光らん

3. 大空と 揺り動く淡青

生きたり我が旗 雲と興らん
 羽ばたけ搏力（はくりょく） どよめよこの道
 青春の笑い 弾けてすでに
 健腕の誇り ここに躍る
 堂々の学府 鏗（こう）たり赤門
 我が赤門 雲と興らん

（本件に関する問い合わせ先）

学生部学生課課外文化係 担当：大八木・石垣

TEL 03-5841-2529

FAX 03-5841-2519

e-mail：kagaibunka@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

総務部

第102回（平成16年・秋季）公開講座 「いま、倫理の時代」開催

お知らせ

第102回（平成16年・秋季）公開講座を「いま、倫理の時代」というテーマで、来る9月25日（土）から10月23日（土）までの間、5回にわたり開催します。多数のご来場をお待ちしています。

—開講にあたって—

いま、倫理の時代。そういう実感が強い。どこか深いところで、人にも社会にも重要な変質あるいは地殻変動が起きているためではないだろうか。倫理とはいうまでもなく人の道、人間としてなにが大切か、どう生きるべきかを指し示すもの、それが倫理にほかならない。それが、いま大きく揺らいでいる。

なにが究極的に重要なことなのか、そんなことなど考える暇がない、忙しいからだという。たしかにそういわれてみれば、忙しいとは「心を亡くす」と書く。しかし、20世紀はビジネスの時代、だから心を亡くす時代、倫理の空洞化が自然の成り行きなどといって嘯いてはられない。

なにが大切なのか、その点で迷いはないという人もいる。しかし、多くの人が集まってみると、それぞれの見方が個々バラバラ、しばしば真っ正面から意見が対立する。そうした状況を、ポスト工業化だから価値観が多様化するのが自然なことなどといってきた。とまれ、その深い亀裂をどう埋めたらよいか、規範理論の構築か、譲り合いと妥協か、権力か、それとも最後は暴力なのだろうか。

いうまでもなく、現代は科学・技術の進歩がめざましい。最近も、ヒトクローン胚の研究を基礎的なものに限って認めていこうという総合科学技術会議生命倫理専門調査会の結論が報道されて、大きな注目を集めた。そういえば、〇〇倫理といった言葉をよく目や耳にする。いわく、政治倫理、企業倫理、労働倫理、生命倫理、環境倫理、情報倫理、医療倫理、技術倫理など、山のようにある。このように、倫理という言葉の前に多くの語彙をおくことのできる時代を私たちは生きている。

その一方で、仮にこれらを応用倫理と呼ぶとすれば、純粋倫理あるいは基礎倫理とでもいうべき領域あるいは問題が大きく頭をもたげている。ひとことでは、人間そのものについての省察が求められているからだろう。いったい、人間の欲望とはなにか、優しさとはなにか、個の尊重とはどういうことかといった問題について熟慮すべき時代の真っ直中に私たちはいる。

第102回東京大学公開講座企画委員会

委員長 稲上 毅（大学院人文社会系研究科長）

◎聴講の御案内

日 程 9月25日（土）、10月2日（土）、9日（土）、16日（土）、23日（土）の全5回
時 間 13：30～16：30
会 場 東京大学大講堂（安田講堂）
定 員 800名
聴 講 料 全講義（5日間）4,000円
選 択（1日）1,000円 ※高校生は半額

◎申し込み方法

1. 「聴講申込書」に必要事項をご記入ください。「聴講申込書」は120円切手を同封の上、総合研究会までご請求いただくか、ホームページからもダウンロードできます。
2. 聴講料を、最寄りの郵便局から下記の口座へお振込みください。
口座番号 00100-6-110037
加入者名 東京大学総合研究会
3. 振込後、「郵便振替払込金受領証」のコピーを「聴講申込書」の所定の欄に貼付し、官製はがき（宛先に申込者の住所・氏名を記入）を同封の上、封書でお申し込みください。折り返し、聴講券をお送りいたします。

◎申し込み・問い合わせ先

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学総務部内（財）東京大学総合研究会
電話 03-3815-8345
ホームページ
<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gen/gen3/koukai/index.html>

第102回 (平成16年秋季) 東京大学公開講座 「いま、倫理の時代」

● プ ロ グ ラ ム

時 間	講 義 題 目	講 師
【第1日】 9月25日 (土)		
13:30 ～ 13:40	開講の挨拶	東京大学総長 佐々木 毅
13:40 ～ 15:00	開発援助 -貧しさへのまなざしと責任-	新領域創成科学研究科助教授 佐藤 仁 (専攻分野: 国際資源環境学)
15:20 ～ 16:40	技術倫理 -社会のための技術とは-	原子力研究総合センター教授 班目 春樹 (専攻分野: 原子力安全工学)
【第2日】 10月2日 (土)		
13:30 ～ 14:50	変わる倫理・変わらない倫理 -〈信〉という存在の次元とその変容-	人文社会系研究科助教授 熊野 純彦 (専攻分野: 倫理学)
15:10 ～ 16:30	社会倫理学のすすめ	教育学研究科教授 川本 隆史 (専攻分野: 社会倫理学)
【第3日】 10月9日 (土)		
13:30 ～ 14:50	医療事故 -真の解決に向けた新たな取り組み-	医学系研究科講師 前田 正一 (専攻分野: 医事法)
15:10 ～ 16:30	生命倫理と死生観	人文社会系研究科教授 島 蘭 進 (専攻分野: 宗教学)
【第4日】 10月16日 (土)		
13:30 ～ 14:50	倫理観とヒトゲノム -最新の脳科学の現状-	総合文化研究科教授 石浦 章一 (専攻分野: 分子認知科学)
15:10 ～ 16:30	情報倫理の葛藤 -個人情報情報の活用と保護-	情報学環教授 須藤 修 (専攻分野: 情報経済)
【第5日】 10月23日 (土)		
13:30 ～ 14:50	「みんなの森」を巡る葛藤を超えて -森はだれのものか? -	農学生命科学研究科教授 井上 真 (専攻分野: 森林社会学)
15:10 ～ 16:30	企業倫理とコーポレート・ガバナンス	法学政治学研究科教授 江頭 憲治郎 (専攻分野: 商法)
16:30 ～ 16:40	閉講の挨拶	企画委員長 (人文社会系研究科長) 稲上 毅

学生部

御殿下記念館プールに新型殺菌浄化システム導入

お知らせ

好評を得てご利用いただいております御殿下記念館のプールに、このたび、「電解式混合酸化剤浄化装置 マイオックスシステム」を導入いたしました。

このシステムは、従来、有害な雑菌の殺菌浄化を塩素薬剤により行っていましたが、電解式混合酸化剤を生成して注入することにより以下の点が改善されることとなりました。

1. 殺菌浄化効果が飛躍的にアップし、衛生面でより安全に。
2. 塩素による不快臭（いわゆるカルキ臭）がなくなる。
3. 目のかゆみ・鼻のいたみ・肌の荒れ・髪の毛の荒れが激減。
4. 水着の脱色が激減。
5. 水の透明度が増し、よりきれいな水に。

まさにプールの命である「水」が新しくなった御殿下記念館プールを是非ご体験ください。

なお、詳細は御殿下記念館ホームページ (<http://www.undou-kai.com/goten/>) をご参照ください。

東洋文化研究所

エレベーター改修工事に伴う書庫内資料利用制限について

お知らせ

9月15日（水）～24日（金）、書庫内エレベーター改修工事を行います。そのため、書庫内資料の利用について一部支障が出ます。

利用者の皆様におかれましては、上記期間をなるべく避けてご利用くださいますよう、ご協力お願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、東洋文化研究所図書室ホームページ (<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~library/>) にてお知らせしておりますので、そちらも併せてご確認ください。

附属図書館

総合図書館備付け図書の推薦について

お知らせ

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、教養をより豊かにするために、全学の教員（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成16年度冬学期授業に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

1. 取りまとめ窓口 各部局図書館（室）
2. 推薦期限 9月24日（金）
なお、その他の図書の推薦は常時受け付けます。
3. 推薦方法 総合図書館備付け図書推薦要領による。



情報基盤センター データベース定期講習会のお知らせ

お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。

データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。パソコンを使った実習を中心に行います。どうぞお気軽にご参加ください。

また、今年度よりネイティブスピーカーの講師による英語編を実施しています。留学生の方のご参加もお待ちしております。

●会 場 総合図書館1階メディアプラザ I
講習会コーナー

●時 間 帯 11:00～12:00、15:00～16:00、18:00～19:00

●定 員 12名（先着順）

●参加方法

参加予約は不要です。

ご都合の良い時間帯を選んで、開始時間までに会場に直接お越し下さい。

●各コースの内容

コース名	内 容
入門編 Introductory Course	授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。 OPACなど基本的なデータベースを使った実習を中心に、効率的な文献の探し方を紹介します。
FELIX 編	雑誌記事索引、SwetScan、PCIの3つのデータベースが統合検索できる目次情報検索システムFELIXを用いて、文献を調査し入手するまでの方法を検索実習しながら紹介します。
Web of Science 編	引用索引データベースWeb of Scienceの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
電子ジャーナル編 Electronic Journals	基本的な電子ジャーナルの利用方法、利用上の注意点から代表的な出版社の電子ジャーナルシステムを用いた効率的な文献検索方法まで実践演習を行いながら紹介します。

●スケジュール（9～10月）

月	火	水	木	金
8/30	8/31	9/1	9/2 15-16:00 電子ジャーナル	9/3
9/6 英語編 15-16:00 入門	9/7 11-12:00 Web of Science	9/8	9/9	9/10
9/13	9/14	9/15 18-19:00 入門	9/16	9/17
9/20 休日	9/21	9/22 休館日	9/23 休日	9/24 11-12:00 FELIX
9/27 15-16:00 Web of Science	9/28 英語編 11-12:00 FELIX	9/29	9/30	10/1
10/4	10/5 18-19:00 電子ジャーナル	10/6	10/7	10/8
10/11 休日	10/12	10/13	10/14	10/15 15-16:00 入門
10/18	10/19	10/20 英語編 11-12:00 電子ジャーナル	10/21 18-19:00 Web of Science	10/22
10/25	10/26	10/27 15-16:00 FELIX	10/28 休館日	10/29

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

なお、情報基盤センターではデータベース定期講習会の他、授業やゼミにお伺いする出張講習会や、1名から申込可能な個人向け講習会を実施しております。どちらも受講者の方のご要望に応じた内容で行いますので、ぜひご利用ください。申込方法等については、GACoS <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/gacos/index.html> をご参照ください。

問い合わせ先：情報基盤センター学術情報リテラシー係
(内線：22649 literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

情報基盤センター オンライン・チュートリアル公開のお知らせ

お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、文献調査の方法を自習形式で学べるオンライン・チュートリアルを作成・公開いたしました。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/gacos/tutorial/>

Flashを利用したアニメーションと音声ナレーションにより、学術情報を収集するための基本的スキルを楽しみながら習得できるe-learning教材です。

学内・学外を問わずいつでもどこでも利用でき、コンテンツの途中からでも再生可能なので、文献検索や電子ジャーナルの利用に困ったとき、その場ですぐ参照することができます。また、スケジュールの都合でデータベース定期講習会に参加できない方にもお勧めです。

ぜひご利用ください。



「データベース講習会 OPAC編」



コンテンツ一覧（それぞれ日本語版・英語版があります）

1. 文献探しのお手軽ガイド
2. データベース講習会 OPAC編
3. データベース講習会 FELIX編
4. 文献調査の達人を目指せ！ 電子ジャーナル 基礎編
5. 文献調査の達人を目指せ！ 電子ジャーナル 応用編
6. 文献調査の達人を目指せ！ 電子ジャーナル 利用上の注意編

問い合わせ先：情報基盤センター学術情報リテラシー係
(内線：22649 literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

人事異動（教官）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退職）			
H16.8.31	鍵山恒臣	辞職（京都大学大学院理学研究科教授）	地震研究所附属火山噴火予知研究推進センター助教授
//	橋本秀美	//	東洋文化研究所助教授
//	松田祐司	//（京都大学大学院理学研究科教授）	物性研究所助教授
（採用）			
H16.9.1	儀我美一	大学院数理科学研究科教授	北海道大学大学院理学研究科教授
//	高橋孝明	空間情報科学研究センター教授	
（昇任）			
H16.8.16	井上純哉	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
//	渡邊秀典	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
//	井上 真	//	//
//	江前敏晴	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻材料・住科学講座製紙科学専攻分野助手
H16.9.1	山本隆司	大学院法学政治学研究科教授	大学院法学政治学研究科助教授
//	小野 靖	大学院工学系研究科教授	高温プラズマ研究センター助教授
//	東 伸昭	大学院薬学系研究科助教授	大学院薬学系研究科講師
//	大崎博之	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科助教授
//	窪川かおる	海洋研究所附属先端海洋システム研究センター海洋システム解析分野教授	海洋研究所助手
//	阿部彩子	気候システム研究センター助教授	気候システム研究センター助手
（配置換）			
H16.9.1	神野直彦	大学院経済学研究科教授	大学院経済学研究科現代経済専攻財政金融講座財政金融課題研究分野教授
//	岩井克人	//	大学院経済学研究科経済理論専攻経済理論講座経済理論開発研究分野教授
//	奥田 央	//	大学院経済学研究科現代経済専攻国際経済講座国際経済開発研究分野教授
//	藤原正寛	//	大学院経済学研究科現代経済専攻現代経済学講座現代経済学開発研究分野教授
//	三輪芳朗	//	大学院経済学研究科企業・市場専攻企業・市場組織講座企業市場組織総合研究分野教授
//	森 建資	//	大学院経済学研究科企業・市場専攻企業・市場組織講座企業市場組織総合研究分野教授
//	醍醐 聰	//	大学院経済学研究科企業・市場専攻会計・財務講座会計財務開発研究分野教授
//	廣田 功	//	大学院経済学研究科経済史専攻経済史講座経済史総合研究分野教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

藤井 澄二 名誉教授

名誉教授藤井澄二先生は平成16年1月30日（金）午前11時50分に急性心不全で逝去されました。享年83歳でした。通夜、葬儀・告別式は目黒大円寺で行われ、藤井先生を偲んで多数の方々が参列されました。



藤井先生は8人兄弟の4番目として横浜市神奈川区でお生まれになりました。ご両親とも敬虔なクリスチャンで、先生の高い倫理観はこのような家族環境で育まれました。東京府立高校、東大と進まれ、本学機械工学科を昭和17年9月に短縮卒業されました。先生の意に反して直ちに現役兵として東部第102部隊に召集され、翌年陸軍中尉として第二陸軍航空技術研究所に勤務されました。ここでは航空機用エンジンの過給機の開発実験を担当し、後に先生の研究対象となった自励振動のサージングに悩まされました。戦後、東京帝国大学航空研究所後の理工学研究所に研究嘱託として戻られ、振動学の研究を始められました。昭和22年7月東京帝国大学助教授に任ぜられ工学部機械工学科に勤務され、24年7月に工学博士の学位を受けられました。昭和28年にフルブライト基金の支援によりマサチューセッツ工科大学の客員として長期海外出張され、機械振動学の権威であったデン・ハルトック教授の薫陶を受けられました。昭和31年3月東京大学教授に昇任して、昭和56年4月に停年により退官するまで、車両工学ならびに自動制御の講座を担当され、機械工学、特に機械振動学、車両工学、自動制御学、人間工学、安全工学、ロボット工学などの広い分野で、卓越した独創力と柔軟な思考力を持って多くの研究業績をあげると共に、宗教的信念にも似た真摯な態度で学生の教育指導に献身し、学会および産業界に前例の無い程の多くのすぐれた人材を育てあげられました。また、在任中は大学院協議会委員、評議員、工学部長、総長特別補佐など多くの重責を勤めて大学の管理運営に携わり、その発展のために貢献されました。

ご退官の後は、直ちに東京電機大学教授に迎えられ、昭和58年大学院理工学研究科委員長、昭和60年理事およ

び理工学部長の重責に着かれ、平成2年に東京電機大学名誉教授の称号を授与されました。また、昭和62年10月には、富山県より県立大学創設準備委員会委員長を委嘱され、同大学設立の基本理念と基本構想の策定に努められ、平成2年4月の開校と同時に初代学長に就任して、平成8年まで教育研究と大学運営に大きな功績を上げられました。

これらの在任中に、第58期日本機械学会会長、第1期日本ロボット学会会長を務めるなど関連学協会の運営と創設にもお力を注がれました。また一方では、文部省の研究行政、通商産業省の産業技術行政、運輸省の運輸技術行政、消防庁あるいは東京都の防災技術行政、交通機関の安全化と高速化のための技術開発など、多くのプロジェクトの企画実施に先生は終始責任ある態度で参画され、産、官、学に指導的役割を果たしてこられました。

先生は、機械やプラントが流体や熱の影響を受けて起こす自励振動の独創的研究で、世界的に高い評価を得ました。昭和24年に起きた八ツ沢水力発電所の圧力鉄管破損事故において、その原因が弁の漏水によるひとりでの成長する水槌（ウォーターハンマ）であることを究明しました。先生の提案した架線・パンタグラフ系の設計法は東海道新幹線の実現に大きな貢献をしました。人工の手を計算機制御し力感覚を持たせる研究で、先生は世界のロボット工学の幕を開けました。

先生はこれらの業績によって、昭和52年東京都科学技術功労賞、昭和61年紫綬褒章、平成9年勲二等瑞宝章など多数の表彰をお受けになりました。

わが国の科学技術の信頼性と国際競争、科学技術の安心安全な社会への貢献などがますます重要になってきている今日、荒海の船の羅針盤の如く、高所から方向を指し示される先生を失うことは、わが国にとって大きな損失であります。

藤井澄二先生のご逝去は誠に痛惜の念に耐えません。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。終わりに、1月30日（金）付けで「従三位に叙する」となったことを申し添えます。

（大学院工学系研究科）

「失われた10年」の総括

20世紀最後のdecade=1990年代は、日本経済や日本企業にとっての「失われた10年」だったと言われる。日本経済は、1910年代から4分の3世紀のあいだ、第2次大戦敗北直後の一時期を除きほぼ一貫して、資本主義諸国のなかで相対的高成長をとげてきた。しかし、1990年代にはいると、サミット参加諸国中の「優等生」から一挙に「落第生」に転落した。また、1990年代の日本では、資本主義体制下としては19世紀末のヨーロッパ諸国以来と言われる、本格的なデフレーションが発生した。日本経済は、20世紀の末葉に大きな構造変化に直面したのである。

日本経済の変化を目の当たりにして混乱に陥ったのは、それを研究対象としている経済学者や経営学者たちである。バブル経済のさなか、日本の経済システムや日本的経営がいかに素晴らしいかを熱く語っていた論者の多くは、バブルがはじけてからしばらくすると、いつのまにか、日本の経済システムや日本的経営を「諸悪の根源」として攻撃するようになっていた。また、そこまで「変身」することはさすがに気がひけたのか、バブル崩壊とともにだんまりを決め込んだ者も少なくなかった。



1990年代の現実、経済学者や経営学者に、そのレーズンデートルを問うような厳しい挑戦状を突きつけたのである。

しかし、経済システムや企業経営の進路だけでなく、日本社会全体が今後進むべき道を正確に展望するためには、問題が凝縮された形で顕在化した1990年代に何が起き、何が起きなかったかを実証的に解明することが必要不可欠である。そして、1980年代までの日本肯定論と1990年代からの日本否定論を乗り越えて、日本社会の過去と現在について、論理一貫性をもった説明モデルを構築することが求められている。社会科学研究所は、このような認識に立って、2000年度から、『失われた10年』? : 90年代日本をとらえなおす」と題する全所的研究プロジェクトに取り組んできた。作業は、現在、とりまとめの段階にはいつているが、これまでの検討を通じて、改革の機会を逸したとされる「失われた10年」にも意外に大きな制度変更が実施されたこと、ただし制度変更の多くは意図された成果をあげなかったこと、今後真の改革を実行するためには内容の適切さとともに担い手の成長が重要であること、などの諸点が明らかになっている。「失われた10年」を総括することは、日本の社会学者が等しく取り組むべき国民的課題なのである。

橘川 武郎 (社会科学研究所)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1296 2004年9月8日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/index-j.html>



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO